

「田舎をもっとたのしもう！」プロジェクト in とみやま

大田市 富山まちづくりセンター

1 富山地区の概要

富山町は、大田市東部ブロックの東端に位置し、大田市と出雲市の境にある人口503人、世帯数196戸、自治会数16の山々に囲まれた中山間地域である。

石見銀山争奪戦の居城となり、まちのシンボルでもある要害山、市の天然記念物に指定されている樹齢300年を超える巨木「高原の椎の木」や、ヤマメが生息する清流もある自然豊かなまちである。



要害山（通称：重蔵山・しげくらやま）



要害山山頂からの眺め。富山の名物、棚田と日本海も見渡すことができます。

2 事業の趣旨

富山町では、少子高齢化にともない年々人口減少が加速している。地元では元気を出そうと中高年の住民が中心となって様々な活動に力を入れているが、若者の定住というには繋がっていないのが現状となっている。そこで「田舎だから楽しい！田舎に帰ってきたい！」と思えるまちづくりを進めることとし、まちの地域資源や魅力を、学びの場や交流を通して広く周知し、ふるさとの良さを再認識すること、主体的にまちづくりに取り組んでいる大人の姿を子どもたちに見せることで地域を担う次世代の育ちを支えることを目的に、本事業に取り組んだ。

3 具体的な取組内容

(1) 地域資源を生かした事業の実施

ア. 地域資源である清流の保全と活用

(ア) 清掃活動を通して自然環境を維持することの大切さを学んだ。

(イ) やまめイベントを実施し、世代間、地域間交流をし、地域愛を育んだ。



やまめのつかみどりイベント。150名を超える参加者でにぎわった。

(2) 地元食材を使った石窯食育事業

とみやま石窯倶楽部の協力を得て石窯でピザ焼き体験をしながら、子どもたち、若い世代に地元で何がどんなふうに行われているのかを知るきっかけづくりを行った。

富山町文化祭に併せて実施した。



休園中の富山幼稚園の園庭に設置されている町民の手作りによる石窯。

(3) 「とみやまカフェ」の実施

地元食材を取り入れたメニューを地域団体と共に考え、廃校となった小学校の校舎をカフェとして活用し、提供した。



とみやまカフェの様子



地元食材をつかった「とみやまカレー」

(4) 周知

イベントごとにチラシを作成し町内全戸、近隣のまちづくりセンター、小学校に配布をした。

また、フェイスブックで「とみやま町ふるさとづくり21推進協議会」のページを立ち上げた。各イベントの準備風景やチラシでの告知、当日の様子などを投稿した。最大閲覧数は800件をこえた。

4 評価と成果

- (1) 今までイベントの参加者だった中学生と大学生の2人が自らスタッフとして関わった。大人たちにとってこの2人の参加は大きな喜びとなり、次世代の育ちを支える意識がより高まった。
- (2) 地域団体、町外で様々な活動をされている方々に協力を依頼し、町のリーダー同士がコミュニケーションを深めたことにより地域の良さに改めて気づくことができる場となった。

5 今後の課題と見通し

- (1) 高齢化が進む実行委員の負担を軽減させるため、小学生・中学生が主体性を持って活動できる場をつくり、保護者も巻き込むしかけづくりをしていきたい。
- (2) 楽しく活動を続けていくため、負担を感じる作業を省くなど、取り組み方の工夫や見直しを行いたい。
- (3) 「田舎だから楽しい！富山に行ってみたい！富山に帰りたい！」と思ってもらえるまちづくりをするために、自分たちも楽しみ、地域で生きる楽しさを学べる場を大切にしていきたい。

(文責：富山まちづくりセンター
大谷千春)